

令和7年度川崎市総合計画に関する市民アンケート調査の結果をとりまとめました

川崎市はこのたび、令和8年1月8日（木）から1月29日（木）にかけて、市内在住の3,000人を対象に「令和7年度川崎市総合計画に関する市民アンケート調査」を実施（有効回収数：1,192件／有効回収率：39.7%）し、その結果をとりまとめましたので、次のとおり公表します。

本市では、平成28年3月に策定した「川崎市総合計画」における政策分野ごとに設定した「市民の実感指標」が、掲げた目標にどれだけ近づくことができたのかを確認するため、施策評価（中間評価及び総括評価）に合わせて概ね2年ごとに実態を把握してきました。

今回の調査結果は、令和8年度の川崎市総合計画第3期実施計画における総括評価の結果と併せて、今後の市の取組改善につなげていきます。

1 調査結果

（1）調査結果の傾向

ア「積極的回答（そう思う・ある程度そう思う）」の割合が高かった上位3項目

- ① ごみの分別や資源のリサイクルなど、ごみを減らす取組を行っている市民の割合（85.4%）
- ② 安全・安心な日常生活を送っていると思う市民の割合（71.3%）
- ③ 居住する地域の住環境（住みやすさ）に満足している市民の割合（70.7%）

イ「積極的回答（そう思う・ある程度そう思う）」の割合が低かった下位3項目

- ① 市民の人権や平和に対する意識が高いと思う市民の割合（21.9%）
- ② 社会保障制度に基づく市の取組が、病気、怪我、失業などによる市民の経済的な不安の軽減に役立っていると思う市民の割合（23.2%）
- ③ 市政に対する市民の意見や要望を伝える機会や手段が整えられていると思う市民の割合（23.4%）

（詳細は、資料の4ページを参照）

（2）計画策定時との比較による傾向

今回の調査結果を総合計画策定時（平成26年度）の結果と比較すると、標本誤差[※]の影響を考慮しても13項目で「積極的回答」に増加傾向がみられました。

一方、「積極的回答」に減少傾向が見られた項目はありませんでした。

※標本誤差：全体（母集団）の中から一部を抽出して調査したことにより生じる誤差のこと

「積極的回答」に増加傾向が見られた項目（13項目）

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ① No.16「産業活力」【+17.9pt】 | ⑧ No. 4「福祉環境」【+12.0pt】 |
| ② No.18「ICT推進」【+17.9pt】 | ⑨ No.22「街なみ」【+11.9pt】 |
| ③ No.25「スポーツ」【+17.7pt】 | ⑩ No.14「住環境」【+11.1pt】 |
| ④ No. 2「安全・安心」【+17.2pt】 | ⑪ No. 7「子育て」【+9.3pt】 |
| ⑤ No. 6「医療」【+15.6pt】 | ⑫ No. 3「上下水道」【+8.7pt】 |
| ⑥ No. 1「災害」【+12.3pt】 | ⑬ No. 5「社会保障」【+6.6pt】 |
| ⑦ No.13「自然・公園」【+12.3pt】 | |

（経年比較など詳細は、資料の5ページを参照）

2 アンケート調査の概要

- (1) 調査内容 市民生活やまちづくりに関して、市民の生活意識や市政に対する意識等を調査
- (2) 調査対象 川崎市在住の満 18 歳以上の男女個人 3,000 人（住民基本台帳から無作為抽出）
- (3) 調査方法 郵送によるアンケート調査（回答方法は、郵送回答とインターネット回答の併用）
- (4) 調査期間 令和 8 年 1 月 8 日（木）～1 月 2 9 日（木）
- (5) 回収状況 発送数：3,000 件（有効回収数：1,192 件／有効回収率： 39.7%）

3 市民の実感指標とは

市民の実感指標は、総合計画に基づく取組等の結果が、市民満足度など主観的な実感の向上にどの程度寄与したのかを把握することを目的として、政策分野ごとに設定したものです。目標値については、平成 27 年 2 月に実施した「新たな総合計画策定に向けた市民アンケート」の結果をもとに、基本計画の計画期間の終期となる概ね 10 年後（令和 7 年度）を想定して設定しました。

＜総合計画の計画期間＞

		H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)
総合計画	基本構想	川崎市 基本構想									
		30年程度を展望									
	基本計画	川崎市 基本計画									
		平成28年度から概ね10年									
	実施計画	第1期 実施計画	第2期 実施計画				第3期 実施計画				
		H28～H29	H30～R3				R4～R7				

今回調査
(目標年次)

4 提供資料

○資料 令和 7 年度川崎市総合計画に関する市民アンケート調査結果概要

※ 報告書（本編）は市ホームページに掲載します。

【URL】 <https://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000188588.html>



問合せ先
川崎市総務企画局都市政策部企画調整課 江津 さん
電 話 044-200-2037（内線 23603）

令和7年度川崎市総合計画に関する市民アンケート調査 結果概要

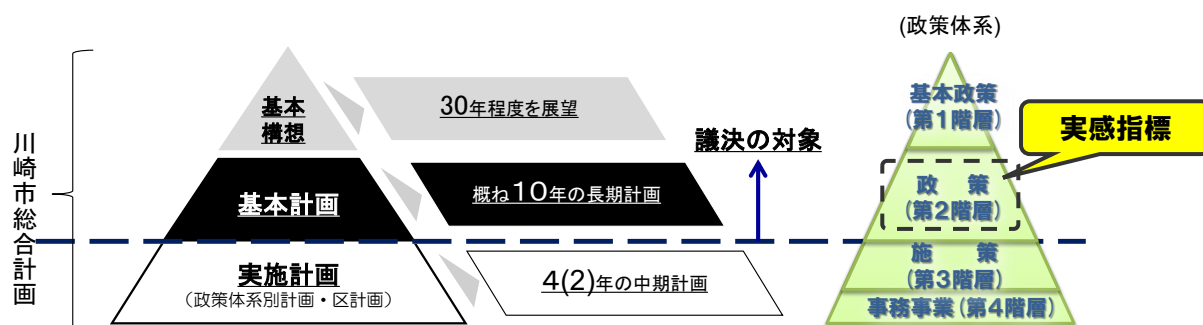
本市では、平成28年3月に策定した「川崎市総合計画」における政策分野ごとに設定した「**市民の実感指標**」が、**掲げた目標にどれだけ近づくことができたのかを確認するため**、川崎市総合計画における施策評価(中間評価及び総括評価)に合わせて**概ね2年ごとに実施**してきました。

今回、「**令和7年度川崎市総合計画に関する市民アンケート調査**」を**令和8年1月に実施**し、その結果をとりまとめました。本結果は、令和8年度の**川崎市総合計画第3期実施計画**における総括評価の結果と併せて、**今後の市の取組改善につなげて**いきます。

1 市民の実感指標とは

市民の実感指標は、**総合計画に基づく取組等の結果が、市民満足度など主観的な実感の向上にどの程度寄与したのかを把握することを目的として、政策分野ごとに設定したものです**。**目標値**については、平成27年2月に実施した「新たな総合計画策定に向けた市民アンケート」の結果をもとに、川崎市民の意識・評価の水準(現状)を把握し、全政令指定都市の市民の意識・評価との比較を行うことで、**基本計画の計画期間の終期となる概ね10年後(令和7年度)を想定して設定**しました。

<「川崎市総合計画」と政策体系の関係>



<総合計画の計画期間>

	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)
総合計画	川崎市 基本構想									
	30年程度を展望									
	川崎市 基本計画									
	平成28年度から概ね10年									
実施計画	第1期 実施計画		第2期 実施計画				第3期 実施計画			
	H28～H29		H30～R3				R4～R7			

今回調査
(目標年次)

2 アンケート調査の概要

調 査 内 容	市民生活やまちづくりに関するいくつかのテーマについて、 川崎市民の生活意識や市政に対する意識等 を調査(設問項目:29 項目)																														
回 答 肢	●5 段階評価方式 ①そう思う、②ある程度そう思う、③どちらともいえない、④あまりそう思わない、⑤そう思わない ●2 項目選択方式(有無) ※調査項目:No.8「生涯学習」及び No.27「地域活動」のみ ①はい、②いいえ																														
調 査 対 象	川崎市在住の満 18 歳以上の男女個人 3,000 人(住民基本台帳から無作為抽出)																														
調 査 方 法	郵送によるアンケート調査(回答方法は、郵送回答とインターネット回答の併用)																														
調 査 期 間	令和8年1月8日(木)～1月29日(木)																														
回 収 状 況	発送数:3,000 件(有効回収数:1, 192 件／有効回収率:39.7%)																														
標 本 誤 差	今回の調査における標本誤差は、有効回収数が 1,192 件であったため、誤差の範囲が最も大きくなる回答比率が 50%前後であった場合でも、±4.1%以内(45.9～54.1%)となります。 ※ 標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数(n)、②回答の比率(p)によって誤差幅が異なります。 $\text{標本誤差}=\pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$ N=母集団数(川崎市の 18 歳以上人口) n=比率算出の基数(回答者数) p=回答の比率(%) 今回の調査結果の標本誤差は下記ようになります。 <table><tr><th>回答比率(P) 基数(n)</th><th>10%または 90%前後</th><th>20%または 80%前後</th><th>30%または 70%前後</th><th>40%または 60%前後</th><th>50%前後</th></tr><tr><td>1200</td><td>±2.45%</td><td>±3.27%</td><td>±3.74%</td><td>±4%</td><td>±4.08%</td></tr><tr><td>1192</td><td>±2.46%</td><td>±3.28%</td><td>±3.75%</td><td>±4.01%</td><td>±4.1%</td></tr><tr><td>1000</td><td>±2.68%</td><td>±3.58%</td><td>±4.1%</td><td>±4.38%</td><td>±4.47%</td></tr><tr><td>800</td><td>±3%</td><td>±4%</td><td>±4.58%</td><td>±4.9%</td><td>±5%</td></tr></table> ※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出しています。なお、この表の計算式の信頼度は 95%となります。	回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後	1200	±2.45%	±3.27%	±3.74%	±4%	±4.08%	1192	±2.46%	±3.28%	±3.75%	±4.01%	±4.1%	1000	±2.68%	±3.58%	±4.1%	±4.38%	±4.47%	800	±3%	±4%	±4.58%	±4.9%	±5%
回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後																										
1200	±2.45%	±3.27%	±3.74%	±4%	±4.08%																										
1192	±2.46%	±3.28%	±3.75%	±4.01%	±4.1%																										
1000	±2.68%	±3.58%	±4.1%	±4.38%	±4.47%																										
800	±3%	±4%	±4.58%	±4.9%	±5%																										

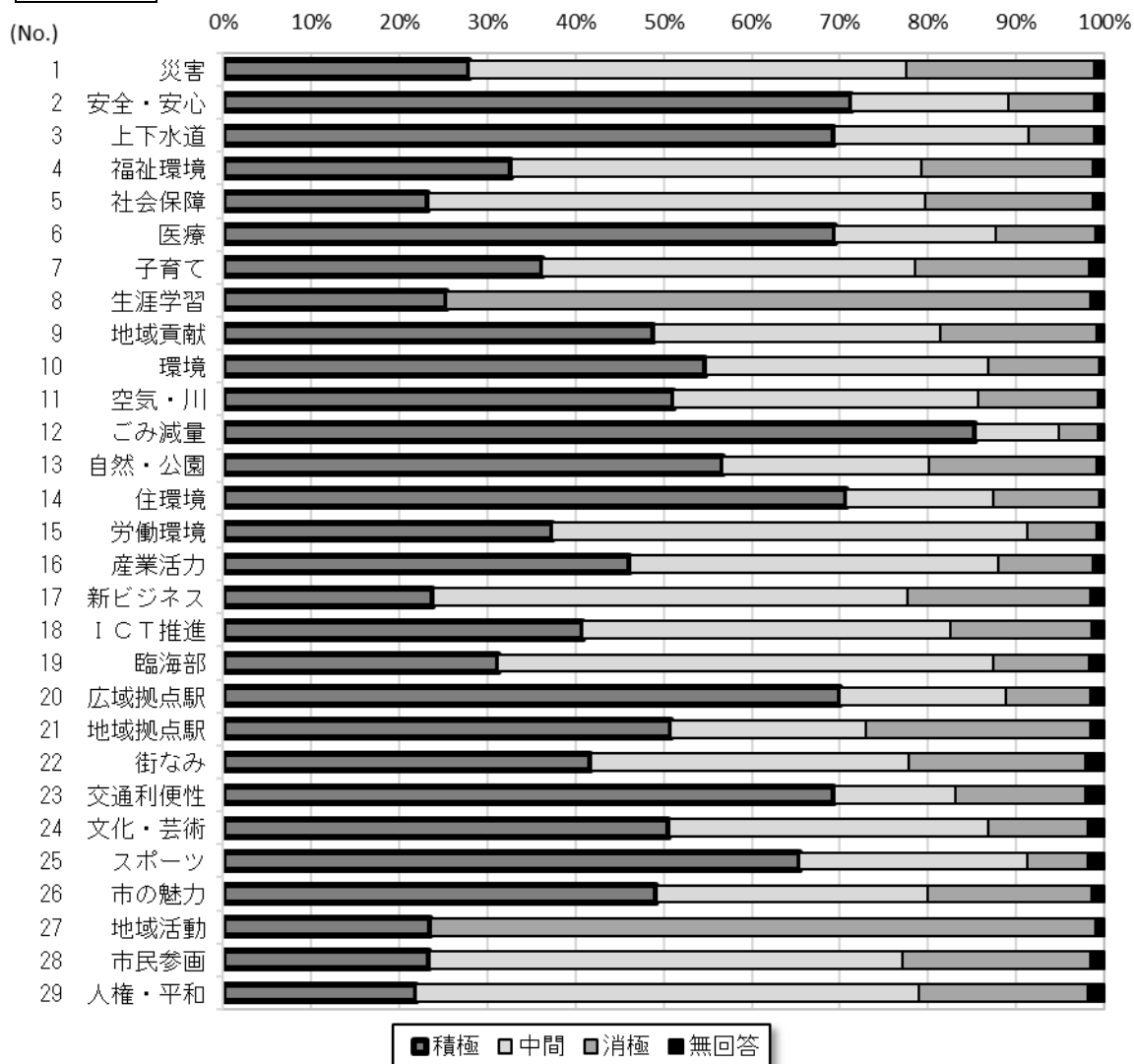
3 調査項目

No	設問	略称
1	災害に強いまちづくりが進んでいると思うか	災害
2	安全・安心な日常生活を送っていると思うか	安全・安心
3	上下水道サービスについて満足しているか	上下水道
4	高齢者や障害者がいきいきと生活できるような環境が整っていると思うか	福祉環境
5	社会保障制度に基づく市の取組が、市民の経済的な不安の軽減に役立っていると思うか	社会保障
6	安心して医療を受けることができていると感じているか	医療
7	子育て環境の整ったまちだと思うか	子育て
8	この1年間に生涯学習をしたことがあるか(有無)	生涯学習
9	自分の知識や技術を地域や社会で活かしたいと思うか	地域貢献
10	環境に配慮した生活を送っているか	環境
11	市内の空気や川などの水がきれいになったと思うか	空気・川
12	ごみを減らす取組を行っているか	ごみ減量
13	市内にある自然や公園に満足しているか	自然・公園
14	住環境(住みやすさ)に満足しているか	住環境
15	働きやすいまちだと思うか	労働環境
16	産業に活力があり、事業者が元気なまちだと思うか	産業活力
17	新しいビジネスの生まれているまちだと思うか	新ビジネス
18	ICTの活用が進んでいると思うか	ICT 推進
19	臨海部で経済活動が盛んであると思うか	臨海部
20	市内の広域拠点駅(川崎駅、武蔵小杉駅、新百合ヶ丘駅)の周辺に魅力や活気があると思うか	広域拠点駅
21	市内の地域生活拠点駅(新川崎・鹿島田駅、武蔵溝ノ口駅、鷺沼・宮前平駅、登戸・向ヶ丘遊園駅)の周辺に魅力や活気があると思うか	地域拠点駅
22	市内に美しい街なみが保たれていると思うか	街なみ
23	交通利便性の高いまちだと思うか	交通利便性
24	文化・芸術活動の盛んなまちだと思うか	文化・芸術
25	スポーツの盛んなまちだと思うか	スポーツ
26	市に魅力や良いイメージがあると感じているか	市の魅力
27	町内会や市民活動など、地域活動に参加しているか(有無)	地域活動
28	市政に対する市民の意見や要望を伝える機会等を市が整えていると思うか	市民参画
29	市民の人権や平和に対する意識が高いと思うか	人権・平和

4 調査結果の傾向

アンケートについて、回答肢※の(①そう思う、②ある程度そう思う)を**積極的**回答、(③どちらともいえない)を**中間的**回答、(④あまりそう思わない、⑤思わない)を**消極的**回答に分類し、まとめました。

また、**積極的**回答の上位・下位 5 項目を次のとおり抽出しました。



積極的回答の割合が高い上位5項目

1. **No.12** ごみの分別や資源のリサイクルなど、ごみを減らす取組を行っている市民の割合 (85.4%)
2. **No.2** 安全・安心な日常生活を送っていると思う市民の割合 (71.3%)
3. **No.14** 居住する地域の住環境(住みやすさ)に満足している市民の割合 (70.7%)
4. **No.20** 市内の広域拠点駅(川崎駅、武蔵小杉駅、新百合ヶ丘駅)の周辺に魅力や活気があると思う市民の割合 (70.0%)
5. **No.6** 安心して医療を受けることができると感じている市民の割合 (69.4%)
No.23 交通利便性の高いまちだと思う市民の割合 (69.4%)

積極的回答の割合が低い下位5項目

1. **No.29** 市民の人権や平和に対する意識が高いと思う市民の割合 (21.9%)
2. **No.5** 社会保障制度に基づく市の取組が、病気、怪我、失業などによる市民の経済的な不安の軽減に役立っていると思う市民の割合 (23.2%)
3. **No.28** 市政に対する市民の意見や要望を伝える機会や手段が整えられていると思う市民の割合 (23.4%)
4. **No.27** 町内会や市民活動など、地域活動に参加している市民の割合 (有無) (23.5%)
5. **No.17** 新しいビジネスの生まれているまちだと思う市民の割合 (23.8%)

5 計画策定時との比較による傾向

今回の調査結果を総合計画策定時(平成 26 年度)の結果と比較すると、標本誤差の影響を考慮してもなお「積極的
回答」に増加の傾向が見られた項目は次のとおりとなりました。

「積極的
回答」に増加傾向が見られた項目(13項目)

- ・No. 1「災害」(27.9%)【+12.3pt】

・No. 2「安全・安心」(71.3%)【+17.2pt】

・No. 3「上下水道」(69.3%)【+8.7pt】

・No. 4「福祉環境」(32.7%)【+12.0pt】

・No. 5「社会保障」(23.2%)【+6.6pt】

・No. 6「医療」(69.4%)【+15.6pt】

・No. 7「子育て」(36.2%)【+9.3pt】
- ・No.13「自然・公園」(56.7%)【+12.3pt】

・No.14「住環境」(70.7%)【+11.1pt】

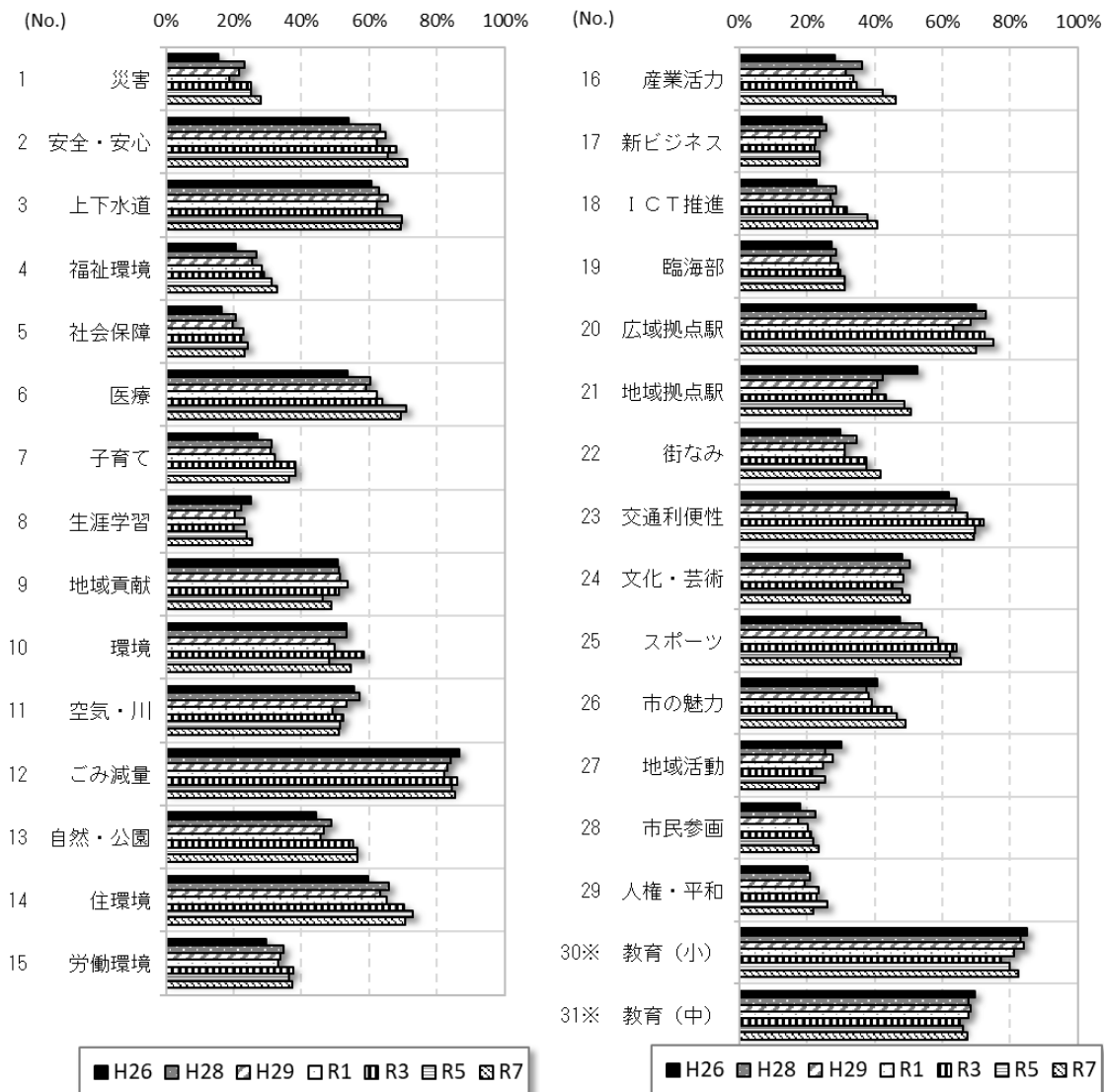
・No.16「産業活力」(46.2%)【+17.9pt】

・No.18「ICT推進」(40.8%)【+17.9pt】

・No.22「街なみ」(41.7%)【+11.9pt】

・No.25「スポーツ」(65.3%)【+17.7pt】

なお、今回「積極的
回答」に減少傾向が見られた項目はありませんでした。



※参考 No.30 「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合
(小学校6年生、全国学力学習状況調査、令和 7 年 4 月実施)
No.31 「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した生徒の割合
(中学校3年生、全国学力学習状況調査、令和 7 年 4 月実施)